

2.看護局

【看護局の理念】

1. 患者さまの権利を守り、個別性を尊重します
2. 地域の中核病院として、急性期、救急、災害の医療ニーズに対応できる質の高い看護を提供します
3. 専門職として、主体性を持ち、継続学習に努める

【23年度スローガン】

地方独立行政法人りんくう総合医療センターの一員としての自覚を持ち行動しよう
基本ルールを守ろう・相手の立場に立った接遇マナーに努めよう・フィッシュの実践

【23年看護局の目標】

1. 質の高い看護の提供と看護水準の向上
 - 1) 各部署の中期計画の課題と実行
 - 2) 人材確保と傾斜配置（病棟・外来の一体化運用の実施、評価）
 - 3) 教育の充実と育成
 - ① 基本ルールの徹底（規定・マニュアルの遵守）
 - ② ジェネラリスト教育と育成（新人看護職員研修ガイドラインに沿った教育・S-QUE院内研修の実施）
 - ③ 特定分野の専門家の活用と育成（院内エキスパート教育・急性期ケア推進室）
2. 患者サービスの向上
 - 1) 患者中心の看護（外来待ち時間の短縮・ICの徹底・クリニカルパスでのチーム医療促進・院内環境充実）
 - 2) 接遇マナーの向上（挨拶・フィッシュの4つの取り組み）
3. 業務運営の効率化
 - 1) 目標管理（BSCの活用）と公平な人事評価制度の導入の整備
 - 2) 働きやすい看護体制（2交替・フレキシブルな看護体制の構築・保育所の設置）
 - 3) 役割分担の推進（看護助手の夜勤導入など）
 - 4) コスト意識の普及と費用節減
 - 5) 病床稼働率（83.7%）
 - 6) 電子カルテの導入と整備
 - 7) 救命救急センターとの円滑な統合（救急部の開設と運用）
 - 8) 地域連携の強化・貢献（円滑な退院調整、指導、市民講座への参加など）

【23年度 看護目標 評価】

<評価>

今年度においては地方独立行政法人になり、組織規定・就業規則などが整備される予定で看護局からは、提案として提出しているが、最終の調整が終了しておらず、共通認識も出来ず地方独立行政法人りんくう総合医療センターの一員としての自覚を持たせ基本ルールの徹底が出来なかった。フィッシュの実践は病棟目標にあげ各部署取り組んでは貰ったが、接遇に対しての苦情の御意見は減らなかった。

I. 質の高い看護の提供と看護水準の向上

1) 各部署の中期計画の課題の実行 各部署達成率は60%~90%

人材確保と傾斜配置（病棟・外来の一本化運営の実施・評価）

人材確保については早期退職制度がなくなったことと師長の頑張りで、今年度の退職率は大幅に減少した。18年~22年 常勤看護師離職率 12.9~21.4 のところ 23年度は 10.4 だった。新人看護職員の離職率も同様に師長の頑張りで、夜勤に入れたい看護師（一番遅く夜勤導入できたのは 1 月）も根気よく教育を続けた結果であると考え。慢性看護師不足により、病棟・外来一本化運営（8 山と透析・6 山と外来・8 海と救急外来）を行なった。問題は若干あったが、透析は今年度の体制で 2 倍以上増える可能性あり無理と判断し 24 年度は再度外来に戻した。

2) 教育の充実と育成

① 基本ルールの徹底（規定・マニュアルの遵守）

*スローガンで評価したとおり、規定できず、次年度プロジェクトとして、師長マニュアルを改訂していく。

② ジェネラリスト教育と育成（新人看護職員研修ガイドラインに沿った教育・S-QUE 院内の実施）

*S-QUE 院内受講率 5.9% (488 件) ポイント獲得者 集計まだ

③ 特定分野の専門家の活動と育成（院内エキスパート教育・急性期ケア推進室）

*今年度は看護局長がサポートし集中ケアCNが室長代行で、運営した。10 月から救命センターの元室長のCNSがりんくうと兼任になったことにより、看護局長と交替して運営した。院内のエキスパートコースは4コース（がん・創傷・感染・救急）を開設し、地域に公開講座として貢献した。各自BSC作成し活動した。院外講義や、講演会、執筆などもコンスタントに依頼があり、活躍している。

II. 患者サービスの向上

1) 患者中心の看護（外来待ち時間短縮・I Cの徹底・クリニカルパスでのチーム医療促進・院内環境充実）

2) 接遇マナーの向上（挨拶・フィッシュの4つの取り組み）

III. 業務運営の効率化

1) 目標管理（B S Cの活用）と公平な人事評価制度の導入の整備

*目標管理については各部署とも作成することが出来、BSC大会で発表することが出来た。それに向けて取り組めた。人事評価制度については今年度取り組み予定事業であったが24年度に延期されている。

- 2) 働きやすい看護体制 (2 交替・フレキシブルな勤務体制の構築・保育所の設置)
*2 交替については、8 海(救急)と6 海の本格実施。2 交替・3 交替ミックスは8 山で本格実施。
検討中は8 海・7 山。育児短時間は1 名のみ取得。夜勤専従看護師の導入体制が整い次年度4 月から実施予定。保育所は10 月に完成。3 月31 日現在15 名定員枠を超える応募があり、翌24 年4 月から30 人定員に増やし、運営する。
保育所設置で、看護師は育児休暇を短縮し早期復帰の兆しがある。
- 3) 役割分担の推進 (看護助手の夜勤導入)
*夜勤導入者の看護助手は思うように集まらず、3 月現在で4 名。費用対効果を考え評価していく予定。
- 4) コスト意識の普及と経費節減
*各部署で引き続き取り組んでいたリネン使用量の削減は2 年間で2,221,473 円の削減が出来た。経費節減など各部署で取り組みTQMで発表がなされた。
- 5) 病床稼働率(83.7%)
*78%で届かず。
- 6) 電子カルテの導入と整備
*10月電子カルテの導入。電子カルテ担当の副看護局長と記録委員会で整備され軌道に乗った。
- 7) 救命救急センターとの円滑な統合(救急部の開設と運用)
*6月救急部として8海病棟に9床開設。10月7海病棟17床とICUを2床増床し、その2床を救命救急センター医師と看護師で運営。救命センター看護師64名を7海・ICU・OP・外来に配属しりんくうと協働しながら3月31日まで行なった。
- 8) 地域連携の強化・貢献 (円滑な退院調整、指導、市民講座への参加など)
*地域連携の強化については、地域医療センターが2 階に移動し地域連携加算を取得した。看護においては開放病棟を効率よく使用することが出来た。
市民講座への貢献は年/2人の認定看護師が講演した。地域への貢献は新人看護師の受け入れ・施設への講演依頼・看護学校・大学への講義参加など貢献した。

看護職員の状況

(1) 採用者・退職者数

平成 23 年 4 月 1 日現在 (人)

内訳 職種	採用者数		職種別採用者数						退職者数		職種別退職者数					
			助産師		看護師		准看護師				助産師		看護師		准看護師	
年度	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職
23	53	12	5	1	48	11	0	0	30	15	3	0	26	13	1	2

(2) 新規採用者状況 (雇用条件変更による再雇用を含まない)

(人)

年度	総計	看護師					助産師	准看護師
		看護大学	看護短大	3年課程	2年課程	通信制		
23	65	5	6	33	14	1	6	0

(3) 職種別在職年数

平成 23 年 4 月 1 日現在 (年)

職種	在職年数		0～3		4～5		6～7		8～10		11～19		20～29		30～		平均	
	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	合計	正職	臨職	
看護師長	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	3	0	1	16	16.6	0		
副看護師長	5	0	1	0	1	0	2	0	11	1	2	0	0	23	10.1	14		
助産師	12	2	0	0	2	0	3	0	3	0	0	0	0	22	5.0	2		
看護	120	21	19	7	24	4	27	4	25	4	4	1	0	260	4.9	4.8		
准看護師	0	8	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	12	26.0	4.7		
合計人数	138	31	20	7	27	4	32	4	50	7	10	2	1	333	10.3	5.1		
%	41.4%	9.3%	6.0%	2.1%	8.1%	1.2%	9.6%	1.2%	15.0%	2.1%	3.0%	0.6%	0.3%		合計	333		

(4) 年齢構成

平成 23 年 4 月 1 日現在 (人)

職種	年数		20～29		30～39		40～49		50～54		55～		合計		平均年齢	
	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職
看護師長	0	0	1	0	10	0	3	0	2	0	16	0	47.1	0		
副看護師長	0	0	10	0	12	0	0	1	0	0	22	1	39.5	52		
助産師	2	0	11	1	7	1	0	0	0	0	20	2	35.5	35.5		
看護	80	6	100	22	38	7	1	3	0	3	219	41	32.6	38.7		
准看護師	0	0	0	7	0	3	1	0	0	1	1	11	50.0	38.7		
合計	82	6	122	30	67	11	5	4	2	4	278	55				

合計 333

(5) 退職理由

(人)

結婚		妊娠・出産・育児		親の介護		健康上の問題		適正・能力・不安		帰郷		転居	
正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職
2	0	5	1	0	1	5	1	1	1	0	1	1	1
進学		人間関係		他施設へ		契約終了		雇用条件変更		その他		合計	
正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職	正職	臨職
0	0	0	0	5	2	2	0	7	9	8	7	36	24

(6) その他

(人)

出産者数	育休	看護休暇
19	17	0

※育休は今年度中に育児休暇に入った人数

(7) 看護助手

年度	採用	退職
22	5	3
23	7	5

※平成 22 年度より委託から病院雇用となる

《実績》

1. 平成 23 年度看護局の委員会活動状況

委員会名	目的	計画	活動内容
副看護師長会	師長補佐業務と共に、実際の職場教育の諸問題を取りあげ、連絡を深めて看護業務の向上に推進していく	<ul style="list-style-type: none"> ・自部署の災害に関する問題点を抽出する ・現行のマニュアルを参考に災害マニュアルの作成を行う ・自部署での防災教育を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害教材DVDの視聴 ・各部署での問題点の抽出 ・不足物品の洗い出し ・災害初動マニュアルの作成 ・平常時点検の検討 ・災害の机上訓練の実施 ・実地訓練の実施
教育委員会	病院及び看護局の理念に基づき、豊かな感性、倫理観、自立性を身につけ、幅広い理論を実践に統合出来るように看護師の能力を高め、安全で患者のニーズに応じた質の高い看護が提供できる専門職業人としての人材育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・各ステップ毎の課題を組み入れた研修及び Off-JT の実行修正 ・各部署の OJT の充実 ・看護局の目標に合わせた講演会の開催 ・急性期ケア推進室との連携をとり院内教育の充実及び看護の質の向上 ・ジェネラリスト教育と人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ステップとも前年度の課題を基に研修計画の修正をし、目標達成できる Off-JT 研修が実行できた ・委員会内で問題点や進捗状況を報告し、全員でディスカッションを行い助言・修正をしながら進めた ・スローガンに合わせた接遇マナーの向上を達成できる内容の講演会を企画し、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長の山口育子先生に「患者の望む看護とは」というテーマで開催した。講演及び DVD で75%の看護職員が参加、参加者全体で94%の者が接遇に意識を持ち行動できているという結果 ・急性期ケア推進室に Off-JT の研修依頼をし講義・研修を行った ・S-QUE 研修を継続しポイント制により自主的教育を促した
記録・看護基準・手順委員会	提供する看護の質を保証するとともに、業務の安全性と活用化のために、実践に即した充分活用できるものを作成・改定していく	<ul style="list-style-type: none"> ・手順の修正、追加 ・電子カルテ導入後の記録漏れなどの問題点の抽出と改善 ・記録マニュアルの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルの見直し ・電子カルテ導入後の問題点の検討
臨床実習指導者会	看護学校の教育計画に基づき、充実した臨地実習をするために、学校との連絡を密にし、指導内容を検討する。また、指導上の問題を明確化し、解決できるように検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの結果を指導に反映できる ・学生の課題に応じた関わりができる ・学生指導における問題提起を行い解決策が見出せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校との調整会議 ・臨床実習指導者の役割についての学習会 ・学生アンケートの集計 ・情報共有および実習指導における問題点についてのディスカッション
褥瘡・NST委員会	医療の質向上を目指し、栄養サポートを推進するための活動チームと、褥瘡委員会の活動が円滑に運営できるように看護部門の問題を検討すると共に、褥瘡及び栄養に関する看護の役割が実践できるように各職場に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養患者の下痢対応マニュアルの作成及び運用・評価 ・カンガルーポンプ、リンクナースに関するマニュアルの運用及び評価 ・エアマット、高ウレタンマットの使用状況と調査 ・学習会の参加率 25%以上 ・褥瘡評価、栄養評価の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・下痢アセスメントシート、マニュアルの説明会の開催 ・カンガルーポンプ、リンクナースに関するマニュアルの使用状況の調査の実施 ・エアマット、高ウレタンマットの使用状況と調査の実施 ・学習会を3回開催
看護研究委員会	看護師として必要な研究態度を養い、看護研究が出来る基礎的能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の特殊性を捉え、研究者の研究スタイル・研究進捗を掌握し、倫理的な研究が行われるよう研究を支援する ・2年間の枠組みに基づき、計画性をもって研究が進行できるよう支援を行う ・推奨研究の発展に向けて支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究マニュアルの検討 ・計6回のクリティークの実施 ・看護研究学習会の実施

委員会名	目的	計画	活動内容
安全推進者委員会	医療事故をなくすために、日常看護業務全般の見直しと改善策に対する看護職員の意識を高める教育活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の問題点抽出、分析、対策立案 ・転倒転落アセスメントシート運用方法の修正と評価 ・薬剤師と協働で内服に関するインシデントの削減 ・インスリンスケール表の変更後の評価 ・電子カルテ導入に関するインシデントの分析、対策立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDAの使用状況の確認 ・転倒転落アセスメントシートに関するアンケート調査の実施 ・自部署で発生した問題に関する情報共有 ・モデル病棟での薬剤師との役割分担に関する調整 ・インスリンに関するインシデント件数等の調査

2. 院内教育

1) 対象者別研修

(看護師)

対象	テーマ	実施日	参加者
新規採用者 STEP1	オリエンテーション	4月1日(金)	33名
	院内探索		33名
	医療の方向性とセンター・・・		33名
	救急医療		44名
	看護局の概要		33名
	看護師長紹介		33名
	自己紹介	4月4日(月)	33名
	服務規程		33名
	個人情報保護法		50名
	防災		45名
	人権研修		55名
	診療報酬	4月5日(火)	33名
	現任教育		33名
	目標管理		33名
	接遇		44名
	感染対策	4月6日(水)	44名
	看護支援		32名
	呼吸ケア	4月8日(金)	33名
	患者相談		33名
	緩和ケア		33名
	栄養科		33名
	放射線部		33名
	検査科		33名
	薬剤部		33名
	CE室		33名
	看護記録	4月15日(金)	29名
	物品管理		33名
	医療安全 I		58名
	インフォームドコンセント		62名
	看護技術(採血等)	4月22日(金)	44名
	医療安全 II		31名
	治験		22名
静脈注射 I	4月28日(木)	43名	
ポンプの使い方		23名	
褥瘡・NST		31名	
看護必要度		28名+他院21名	
看護技術		22名+4名	
振り返り	22名		

対象	テーマ	実施日	参加者
STEP1	救急時の看護	5月26日	23名+他院9名
	成長するための姿勢を学ぶ	6月28日	22名
	one for all all for one 受け持ち看護師の役割	10月14日	22名
	静脈注射Ⅱ	11月18日	36名+他院9名
	死亡時の看護	1月31日	22名+4名
	発表！私の課題 フィジカルアセスメント呼吸・循環	3月16日	22名
STEP2	「看護過程とは」ケーススタディについて	5月20日	16名
	ケースレポート発表会	9月30日	16名
	フィジカルアセスメント・ME機器の取り扱い	11月11日	22名
	ICU/OP 研修	12月1日～2月29日	16名
	まとめ研修「受け持ち看護師になれたかな」	2月10日	16名
STEP3	リーダーシップとは	6月23日	18名
	リーダー業務とは	10月21日	17名
	発表！私の看護観	1月27日	15名
	プリセプターとは(次年度に向けて)	3月23日	19名
プリセプター	情報交換・コミュニケーション技法	6月17日	14名
	情報交換・コミュニケーション技法	9月16日	11名
	まとめ研修	2月24日	11名
全体	講演会「患者の望む看護とは」	2011年10月26日 17:30～18:30	看護職員全員 出席及びDVD参加者75%

(看護助手)

テーマ	実施日	対象者
感染予防	7月26日	35名
医療安全	11月28日	36名

3. 院外教育

1) 看護協会主催 研修

主催	講習・研修会名	期間	回数	開催地	受講人数
大阪府看護協会	大阪府主催短期研修	8月～2月	30	大阪府看護協会	47人
大阪府看護協会	認定看護管理者教育 ファーストレベル	5月20日～8月26日 10月12日～11月18日 1月11日～2月16日	3	大阪府看護協会	3人

2) その他の研修

主催	講習・研修会名	期間	回数	開催地	受講人数
日本臨床看護マネジメント 学会・S-QUE 研究会	看護必要度評価者 院内指導者研修	2011年5月29日	1	大阪	4人

3) 認定看護師研修

主催	講習・研修会名	期間	回数	開催地	受講人数
大阪府看護協会	脳卒中リハビリテーション看護	2011年4月5日～10月31日	1	大阪	1人
大阪府看護協会	がん性疼痛看護	2011年4月5日～10月31日	1	大阪	1人

4) 認定看護師学会参加

学会名	期間	回数	開催地	受講人数
日本糖尿病学会近畿地方会	2011年10月29日	1	大阪	1
日本静脈経腸栄養学会	2012年2月22日～2月23日	1	神戸	1
日本フットケア学会年次学術集会	2012年3月17日～3月18日	1	大阪	1
第16回日本糖尿病教育看護学会学術集会	2011年9月24日～9月25日	1	東京	1
第38回日本脳神経看護研究学会	2011年10月1日	1	富山	1
第13回日本災害看護学会	2011年9月9日～9月10日	1	埼玉	1
第26回日本がん看護学会	2012年2月11日～2月12日	1	島根	1
第39回日本集中治療学会学術集会	2012年2月28日～3月1日	1	千葉・幕張	3
第20回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	2011年5月21日～5月22日	1	石川・金沢	1
第76回日本循環器学会学術集会	2012年3月16日～3月18日	1	東京	1

5) 認定看護師継続 研修

講習・研修会名	期間	回数	開催地	受講人数
大阪糖尿病患者教育担当者研修会	2011年7月9日	1	大阪	1
感染管理	2012年1月～3月	1	神戸	1

4. 研修生受け入れ

1) 看護専門学校学生実習受入

学校名	学年	期間	延べ人数	実習場所
関西医療大学保健看護学部 保健看護学科	1年	2011年12月20日～12月22日	10人	6海・8山
	2年	2012年2月28日～3月9日	10人	7海・7山
	3年	2012年1月30日～2月17日	10人	5海・8海
泉佐野泉南医師会看護専門学校	1年	2011年12月6日～12月14日	24人	5海・7海・7山・8山
	2年	2011年7月4日～7月21日 2012年1月10日～1月26日 2012年1月30日～2月16日	60人	5海・7海・7山・8山
	3年	2011年5月2日～5月20日 5月24日～6月9日 8月23日～9月8日 9月12日～9月29日 10月3日～10月20日 10月24日～11月10日 11月14日～12月1日	168人	5海・6海・7海・7山・8海・8山
岸和田市医師会看護専門学校	3年	2011年5月16日～6月10日 8月29日～9月30日	20人	6山
久米田看護専門学校	3年	2011年11月28日～12月16日	5人	6山
和歌山看護専門学校(通信制)	2年	2011年8月1・2日 8月10・11日 8月12日 8月16・17日 8月18・19日	16人	6海・6山・8海・8山
東亜看護専門学院(通信制)	1年	2011年11月8・9日	2人	7海
	2年	2011年7月19・20日 7月21・22日 8月1・2日 8月3・4日 8月8・9日 8月10・11日 8月11・12日 8月16・17日 8月18・19日	26人	5海・6海・6山・7山・8海・8山

2) 助産師・養護教員

学校名	学年	期間	延べ人数	実習場所
千里金蘭大学	助産学専行	2011年9月20日～10月28日 10月31日～11月4日	2人	6山
白鳳短期大学	助産学専行	2011年8月1日～9月22日 2011年8月29日～9月9日	2人	6山
大阪大学医学部保健学科	助産学専行	2011年11月21日～12月16日	1人	6山

3) 新人研修

施設名	期間	延べ人数	内容
佐野記念病院	2011年4月4日	4人	個人情報保護法
		4人	人権研修
	2011年4月15日	4人	医療安全Ⅰ
		4人	インフォームドコンセント
	2011年4月22日	4人	看護技術(採血・筋肉皮下注射)
		4人	医療安全Ⅱ
	2011年4月28日	4人	看護必要度
		4人	静脈注射Ⅰ
泉州救命救急センター	2011年4月1日	11人	救急医療
	2011年4月4日	12人	個人情報保護法
		12人	防災
		12人	人権研修
	2011年4月5日	11人	接遇
		11人	感染対策
	2011年4月15日	12人	医療安全Ⅰ
		12人	インフォームドコンセント
		5人	看護技術(採血・筋肉皮下注射)
	2011年4月22日	5人	静脈注射Ⅰ
永山病院	2011年4月28日	12人	看護必要度
七山病院	2011年4月15日	5人	医療安全Ⅰ
		5人	インフォームドコンセント
		5人	看護技術(採血・筋肉皮下注射)
	2011年4月22日	5人	医療安全Ⅱ
		5人	静脈注射Ⅰ
	2011年4月28日	5人	看護必要度
野上病院	2011年4月15日	4人	看護技術(ボディメカニクス・経管栄養・移動)
		4人	インフォームドコンセント

4) その他

学校名	内容	期間	延べ人数	実習場所
泉佐野市立佐野中学校 2年生	職業体験	2011年9月9日	5人	5海・8海・8山
泉佐野市立長南中学校	職業体験	2011年11月16・17・18日	3人	外来・7山・看護助手と共に
泉佐野市立第三中学校	職業体験	2011年10月27・28日	2人	7海・看護助手と共に
大阪府立佐野高等学校	看護体験	2011年7月26日	18人	5海・6海・7海・7山・8海・8山
看護協会	ふれあい看護体験	2011年6月13日	2人	7海・8山

《業績》

1) 院外発表

学会名	月日	発表者	所属部署名	テーマ
第76回日本循環器学会 学術集会	2012年3月16日～18日	沖・西村・ 寿慶	7山	包括的心臓リハビリテーションを実施 している心不全患者のセルフエフィ カシーの向上
第27回日本環境感染学 会	2012年2月3日・4日	大野博美	感染症センター	産科病棟における最近10年の好酸 菌感染症症例
第13回日本救急看護学 会学術集会	2011年10月21日・22日	大野博美	感染症センター	各種圧モニターカテーテルにおける 感染状況の検討

2) シンポジスト・パネルディスカッション

学会名	月日	発表者	所属部署名	テーマ
日本糖尿病教育・看護 学会学術集会交流会	2011年9月24日	西村直美	東京	ディベート：合併症を持つ糖尿病 患者の看護を語ろう
日本フットケア学会年次 学術集会セッション	2012年3月17日	西村直美	大阪	「フットケア実践教室」足のアセ スメントをしてみよう
医療通訳研究会	2011年10月23日	新垣智子	神戸	外国人医療と看護教育

3) 院外講師

研修・セミナー	月日	講師	講演場所	テーマ
看護協会短期研修	2011.8.23	川島孝太	和歌山県看護 協会	人工呼吸器装着患者の看護
看護協会短期研修	2011.6.14-6.15	西村直美	大阪府看護協 会	糖尿病患者と家族の理解
	2011.7.2	西村直美		糖尿病重症化予防フットケア研修
大阪府看護連盟泉南支 部研修会	2012.2.4	川島孝太 藤原由子	スターゲートホ テル(泉佐野 市)	急変時対応の知識と技術を身につ ける
大阪府訪問看護協会ス テーション協議会	2012.1.28	西村直美	岸和田徳州会 病院	在宅フットケアについて
糖尿病教育・看護学会 主催研修会	2011.12.10-12.11	西村直美	大阪医科大学 本部北キャン パス	糖尿病重症化予防フットケア研修
大阪糖尿病看護研究会 スキルアップセミナー	2011.11.20	西村直美	大阪府看護協 会ナーシング アート	糖尿病看護外来の実際と看護ケア
中材業務及び滅菌技法 研究会	2011.7.30	大野博子	大阪グランキ ューブ	手術器機・器具のメンテナンス
	2011.8.6			
	2011.9.10			
	2011.12.3			
院内研修	2012.1.31	大野博子	野上病院	感染対策の基本
南泉州脳卒中診療研究 会	2012.2.16	小城千絵	スターゲートホ テル(泉佐野 市)	脳卒中リハビリテーション看護 認定 看護師の役割
医療の国際化に対応し た人材育成を目指す大 学教育のありかたに関 する研究会	2011.10.4	新垣智子	神戸市看護大 学	日本における外国人医療の現状と課 題
岡山県国際交流会多文 化共生コミュニケーション サポーター研修	2012.1.28	新垣智子	岡山県国際交 流協会	日本における医療現場と通訳
兵庫県立大学看護学部 グローバル看護講座	2012.2.28	新垣智子	兵庫県立大学	日本在住外国人の健康医療問題と その支援

4) 看護学校講師

	氏名	講義内容	所属部署名	講義回数
泉佐野泉南医師会看護専門学校	山田隆子	運動器系疾患看護	5海	8時間
	大竹史恵	消化器系疾患看護(内科)	8山	6時間
	高木良子	消化器系疾患看護(外科)	8海	6時間
	小藪美由紀	腎・泌尿器疾患看護	6海	6時間
	児嶋洋巳	血液疾患看護	8海	6時間
	中嶋理絵	マタニティ異常	6山	8時間
	川島孝太	ICU看護	ICU/CCU	6時間
	西村直美	成人看護学方法論Ⅰ「内分泌・代謝疾患」	8山	6時間
	西村直美	成人看護学方法論Ⅱ「内分泌・代謝疾患」	8山	6時間
	小城千絵	脳神経系疾患看護	5海	14時間
	森 沙苗	化学療法を受ける人の看護	外来	2時間
	大野博子	感染症・アレルギー看護・AIDS	看護管理室	4時間
久米田看護専門学校	初谷聖子	母性看護学特論 母性看護学に必要な看護技術	6山	3時間
	東山巴奈子	母性臨床看護論Ⅱ ハイリスク妊娠の看護 ハイリスク産婦の看護 ハイリスク褥婦の看護 死産・障害児を取り巻く看護 ハイリスク新生児の看護	6山	7時間
京都医療センター附属京都看護助産学校	新垣智子	国際看護学概論Ⅱ	外来	
関西医療大学	川島孝太	救急・クリティカルケア看護	ICU/CCU	2
	中村美乃生	クリティカルケア看護	ICU/CCU	3

5) 投稿・著書

本・雑誌名	テーマ	出版社	所属部署名	氏名
ドルターコールに強くなる！急変の見方・対応・伝え方		南江堂	ICU/CCU	川島孝太
月間ナーシング	認定看護師に学ぶケアの極意：集中ケア 検査データのチェックポイント	学研	ICU/CCU	川島孝太
ハートナーシング	ゼッタイ見逃さない！心臓疾患患者さんにおける異常の早期発見と対応 4. 呼吸	メディカ出版	ICU/CCU	川島孝太
呼吸器ケア	呼吸ケアのストレス要因を考えるー急性期患者の呼吸ケアとストレスー	メディカ出版	ICU/CCU	中村美乃生
救急看護&トリアージ	感染リスクから自分を守る感染対策とワクチン接種	日総研	看護管理室	大野博子